

令和7年度 放課後等デイサービス ピュアはーと 自己評価表

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	該当なし	改善目標、工夫している点など	自由記載	備考
体 環 境 整 備	① 利用定員が発達支援室等スペースとの関係で適切であるか。		○				少しでも片付けをし、安全に広く使えるよう心掛けているが、走り回るなどするにはもう少し広い方がよい	適切かどうかわからない。子供たちへの遊びによっては1階がスペースが足りないと感じる時がある アクティブな活動（運動系）には少し狭い	発達支援室 ⇒1階・2階フロア
	② 職員の配置数は適切であるか。		○				職員の人数が足りない時には他部署に延長のお願いをしたり、協力をお願いしている	職員数が多い日、もう少し欲しい時など日にはよるところがある	
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか。		○				昨年度、増築した新棟に車いすでも可能なトイレを設置	手すりについてはものの急な階段やトイレに入る際の大きな段差がある。	
業 務 改 善	④ 業務改善を進めるため職員間で課題を抽出し、解決に向けて取組み、振り返りをしているか。	○					ヒヤリハットなど共有しなければいけない事項に関しては、今後の対策など話、振り返りをしている。通常でも気になることやその他事項も共有できている	毎週ミーティング、必要時には夕方などで行っている。	
	⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか。	○							
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やHP等で公開しているか。	○							
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			○					第三者評価 公正・中立な第三者評価機関が、専門的かつ客観的に、事業者が提供する福祉サービスの質を評価。受審については任意。
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	○							
	⑨ 活動プログラムの立案等を職員同士で相談できる環境があるか。	○							

適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○							
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	○						契約時にはアセスメントツールを使用している	
	⑫	活動プログラムは、色々な活動の提供を行い工夫されているか。	○						各職員が工夫しながら活動を提供している	
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて課題を決めて細やかに設定して支援しているか。	○							
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○							
	⑮	その日の支援を開始する前に職員間で確認をし、支援の内容や役割分担について確認しているか。	○					おやつの買い物や図書館など外出の際には配置の確認がされている	必要時には行えている	
	⑯	支援終了後には、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○						問題などあった際は、残っている職員がその日にあったことは話しているが、その日に全員に周知できない時には翌日または週1回のミーティングで周知している	
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○							
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか。	○						自事業所の相談員がついている児童が定期的にモニタリングを行えているが、他事業所の相談だとモニタリングを全体で行っていない児童もいる	
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか。	○							基本的活動とは 自立支援と日常生活の充実のための活動、創作活動、地域交流の機会の提供、余暇の提供
⑳	個別支援計画・支援について・障がいへの理解に関する研修を実施しているか。	○								

関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	○					担当が事情により出られない時は代わりに出席することもあったが、情報共有はできていた。	児童の担当者だと難しいケースは担当出ないも者が会議に出たりと臨機応変に行えている。		
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○						できている学校とできていない学校がある。		
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか。					○				
	㉓	就学前の様子を保護者・関係機関との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○								
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○								
	㉕	地域の小学校・中学校・高等学校等の児童生徒との交流や、障害のない子どもと活動する機会はあるか。		○						小学生の体力づくりは地域の児童館にお声がけしたがなかなか参加して下さるに至らず、交流する場がない	
	㉖	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○							連絡ファイルや送迎時に行っている	
	㉗	支援の視点から、保護者に対して助言・指導等の支援を行っているか。		○						こちらから積極的には行えていないが、ご相談があった際には行えている	

非常時等の対応	③7	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル策定し、職員や保護者に周知しているか。		○						マニュアルがあってもぐたいきな対応方法についてはわからない（嘔吐処理など）	
	③8	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○							長期休み時児童と行えている。職員間で温度差があると思う。職員のみでより具体的にどのようなしたらよいか考えながら訓練する時間があってもよい定期的な訓練は行っていると思われる。	
	③9	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○								
	④0	どのような場合にやむを得ず身体的拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。						○			
	④1	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。						○		医師の指示書の提出はないが、アレルギーの有無はアセスメント時に確認し留意している。	
	④2	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	○								